

会派の代表者が施政方針や予算案の概要に対して質問しました
※会派については、令和7年2月定例会時点となります。

経済建設分科会

2月28日・3月3日

店舗魅力アップ改修事業費補助金

Q 実施するに至った経緯は何か。また、店舗改修に利用できる補助金として、空き店舗対策事業費補助金との重複利用はできるか。さらに、様々な店舗がある中で、業種や対象となる工事等はどうのようなものを想定しているか。

A 経緯については、定期的に、三島市、三島市観光協会、三島商工会議所、三島信用金庫の四者で行っている中心市街地のまちづくりや回遊性についての協議の中で、25店舗ほどから改修したいとの声があり、併せて、その他の地域の店舗からも補助金についての問い合わせを受けており、検討の結果、物価高騰対応重点支援地方交付金を活用し、補助することとした。

補助金の重複利用については、店舗魅力アップ改修事業費補助金は既存の店舗の改修を補助する制度であり、空き店舗対策事業費補助金は新規の事業者を対象にしていることから、重複して受けることはできない。

業種や対象工事等については、現在検討中であるが、日本標準産業分類に基づいて、小売業や飲食サービス業、生活関連サービス業などを営んでいる店舗で、外装工事、内装工事、外壁の塗り直しや屋根の修繕等を想定しているが、詳細については、今後、協議していく中で決めていく。

市内の無電柱化事業

Q 今後どのような予定となっているか。また、この事業による交通への影響はあるか。

A 都市計画道路小山三軒家線及び都市計画道路南町文教線における無電柱化工事は令和6年10月から開始しており、今後の予定としては、本体工事としてコンクリートの大きいマスを入れる特殊部の工事、その特殊部と特殊部をつなぐ管路工事を令和8年3月までに終了する予定である。その後、民地内に電線を引く工事、歩道部分をきれいにする工事を行っていく。交通規制については、原則交互通行で行っているが、クレーンを使用するような工事を行う場合には、部分的に片側交互通行で行っている。また、市道愛染院祇園線については、今後施工をしていく中で、一時的に通行止めになる可能性がある。その際には、迂回路を確保し、市民に十分な周知を行っていく。

総務分科会

3月6・7日

一般廃棄物処理計画事業

Q 食品ロスの削減のために市内の店舗と購入者をマッチングさせるアプリであるタベスケの実証実験が令和6年10月から1年間行われているが、ランニングコストはどのくらいか。実証実験が終了した後に事業者は継続するのか。

A 静岡県内では三島市が初めての取り組みということもあり、実証実験という形で通常必要な経費がかからない状態で利用しているが、実証実験が終了し、継続して利用すると月額22,000円の使用料がかかるようになる。タベスケの選定理由の一つに、市が使用料を払うことで店舗の手数料は必要ないということがある。現在37店舗で実証実験を行っているが、3月5日までに2,424品が販売され、1,228kgの削減につながった。この食品ロスの削減効果から、実証実験が終了する令和7年10月以降もタベスケを継続していきたい。

東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏推進協議会負担金

Q 参加自治体の負担割合は。また、モルト^{モルト}滓を再利用するためのアップサイクル拠点はどうのようなイメージで進めるのか。

A 参加自治体の三島市と沼津市の負担は同額となる。また、アップサイクル拠点については、できるだけ三島市内に設置したいと考えており、モルト滓^{かす}を飼料として育った豚をブランド化していきたいと考えている。モルト滓は水分を多く含んでおり、夏場だとすぐにカビが生えてしまうため、水分を飛ばすために脱水する機械をアップサイクル拠点に入れることになり、静岡クラフトビール協同組合が保有する。静岡県からの補助金がなくなる3年後以降は、静岡クラフトビール協同組合が自走していく仕組みを作っていくこととなる。

改革みしま

藤江 康儀



長伏グラウンドの運用

問 5億5千万円を超える予算に見合うよう、野球やソフトボールに留まらずより多くの市民の利活用を想定していくことが、三島市全体の将来を豊かにすると思われる。グラウンド周辺の特性を生かした取り組みについて伺う。

答 大規模改修後の長伏グラウンドAは多くの市民の皆さまにご利用いただけるよう利用用途を拡大していく。また、再整備を予定している長伏公園と一体的に賑わいを創出すると同時に、スポーツによる健康都市づくりのシンボルとなる施設として整備していく。

緑水会

佐野 淳祥



KENPOS健康促進アプリのポイント付与効果と今後は

問 タニタとの契約の終了後、東急不動産グループのスマホアプリKENPOSを使用し、ポイント・インセンティブで運動の習慣づけを促しているが、アプリの利用状況を踏まえ、令和7年度はいかに成果を示すか、今後について伺う。

答 アクティブユーザーの増加に向け、子育て世代が多く参加するイベントでの勧誘や、健康経営に取り組み企業と連携した企業対抗ウォーキングに加え、新たに「こどもサポート（幼稚園・保育園等の応援）の商品を設定し、さらなる新規ユーザーの獲得を図っていく。

オーガニック給食、オーガニックビレッジ宣言

問 地域の学校給食にオーガニック給食を取り入れることは子どもたちの健康だけでなく、地元の農業を支える上でも重要な施策である。オーガニックビレッジ宣言についてを含め、今後の拡大方針を伺う。

答 オーガニック給食については、有機米が比較的導入しやすいと考えられることから、異物混入がないこと、現行と同価格で納入、各学校に配送することが可能であれば、試行に向けて「オーガニック給食の日」を設けるなどイベント等も含めて検討していく。

デジタル化による「行かない市役所」の現状は

問 三島市DX推進計画の第一に「窓口に行かなくても良い市役所」を掲げ、5年前と比較して窓口対応数が半減した。行政手続きの電子化から発行総数も減少した。市民の皆様は「行かなくても良い市役所」をどのように周知するか。

答 行かなくても良い市役所を実現することは、市民の利便性向上において重要な要素と考える。「書かない、待たない、行かない」の3つのフレーズを併記して目指している市役所のイメージを明確にする。今後はこの3つのフレーズを使った電子市役所の実現を目指す。

新庁舎建設における跡地利用等

問 新庁舎がいずれの場所になったとしても庁舎を統合する方針としていることから、跡地が発生することとなる。跡地活用においては、回遊性の向上策を講じる必要があると認識するが、どのような見解か伺う。

答 令和7年度行政機構改革において、中心市街地活性化に関連する部署を統括する「まちなか賑わいづくり推進室」を新設する。既存の様々な計画なども総合的に勘案しながら、跡地活用を含めたまちづくりビジョンの策定にチーム三島で取り組んでいく。

クラフトビール協議会に多額の補助金は必要か

問 個人的にはクラフトビール愛好家だが、市民の皆様の税金を3年間で1億2千万円（県・市合計）支出することに疑問がある。民間でやることと行政がやることを分けて考えるべきだが、どのような明確な効果があるのか伺う。

答 波及効果が高く成長が見込まれるクラフトビールのポテンシャルを生かし、県のふじのくにフロンティア地域循環共生圏の認定を受ける中で、官民共創のもと積極的な事業推進を図り、地域活性化と持続可能な地域循環の仕組みづくりにつなげていきたい。